

# Hassojitz

## 総合商社 双日 未来を創造した先駆者たち



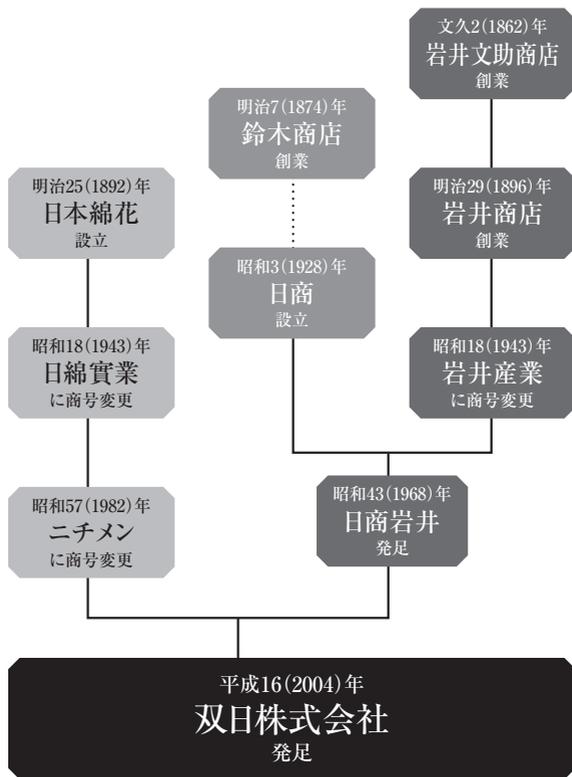
第3巻

躍動



双日株式会社

## 双日の系譜



本作品は、可能な限り史実に基づいて作成していますが、構成上、マンガ特有の表現、描写を用いている部分があります。  
また、登場人物の台詞は、基本的に各史料から引用していますが、一部推測により作成しています。

前回までのあらまし

鈴木商店は  
北九州大里に新たな  
工業団地を設け  
製糖、小麦、麦酒、  
焼酎などの  
製造に乗り出す

また岩井商店は  
メリヤス製造にも進出

官営八幡製鉄所  
の稼働に刺激を受け  
鈴木商店は  
神戸製鋼所を設立し  
岩井商店も  
亜鉛鉄板製造の経営に  
参画した



いつぼうの日本綿花は  
インド、中国として  
世界最大の綿花の  
産地である米国に  
視点を置く

また、世界各国からの  
原料調達だけでなく  
綿布輸出に乗り出すなど  
世界市場への参入を  
加速していった

日本の産業革命は  
徐々に進行  
していた



そんななか、世界的事件が起きる  
大正三（一九一四）年の  
第一次世界大戦の勃発である  
日本の産業界に激震が走る

好況か不況か  
双日の源流を支えた先駆者たちは  
いかに動いたのか……  
日本における産業革命は  
ますます加速していく！

**sojitz**  
**Hassojitz**

発想 × sojitz

第1章

日本綿花

大戦勃発と紡績大国の失速、  
そして喜多又蔵の先眼力





大正三(一九一四)年六月  
日本綿花の喜多又蔵は  
世界一周の旅を終え  
約一年ぶりに帰国した

久しぶりだが  
以前にも増して  
活気を  
感じるな……



聞いたか?  
喜多さんが帰国  
したらしいぞ

おう、聞いた  
三〇代の取締役  
というだけでも  
珍しいのに  
世界一周とは  
たまげた



おう、お前らは  
喜多さんの  
あの話を  
知ってるか?

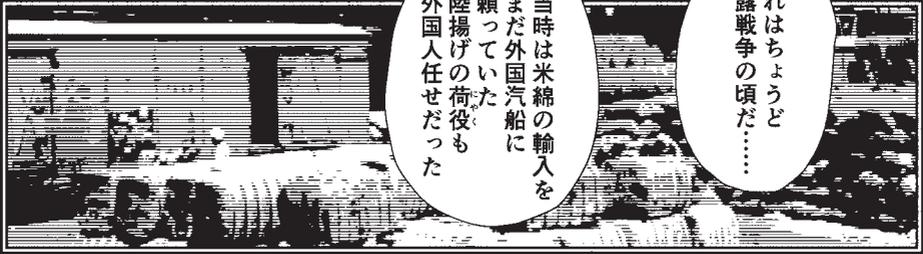
あの話?

ああ  
お前たちは  
知らないかもな



そして  
エジプトをはじめ  
イタリヤ、スイス、フランス、  
英国、ドイツ等を歴訪し  
帰路はシベリア鉄道に乗り  
満洲經由でようやく帰阪した

喜多は前年の八月  
米国テキサス州の  
フォートワース出張所  
を皮切りに  
ニューヨークと  
ヨーロッパを經由し  
インドへ  
ボンベイを中心に  
精力的な視察を行う



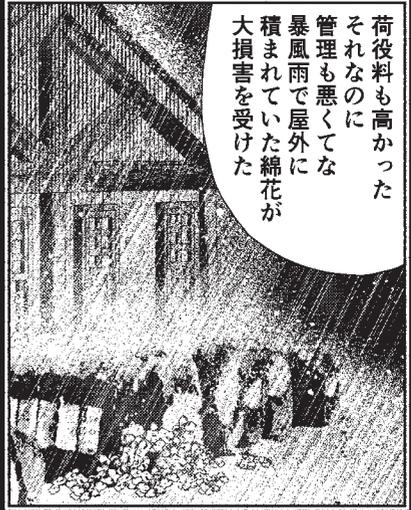
あれはちようど  
日露戦争の頃だ……

当時は米綿の輸入を  
まだ外国汽船に  
頼っていた  
陸揚げの荷役も  
外国人任せだった



もちろん損害賠償を  
求めたが拒否された

そこに  
立ち上がったのが  
喜多さんだ



荷役料も高かった  
それなのに  
管理も悪くてな  
暴風雨で屋外に  
積まれていた綿花が  
大損害を受けた



それで  
終わりにやないぞ  
神戸港の負担を  
軽減するために  
大阪への直輸入も  
喜多さんが開始  
したんや



同業会の了解を得ると  
強硬に交渉して  
荷役料は半額になった  
その後は荷役と保管を  
日本の東京倉庫  
(現・三菱倉庫)  
委託したんや



それにしても  
米国は広大だった  
南郷三郎さんが  
渡米したから  
うちも米国市場を  
もっと開拓できるぞ

南郷三郎は  
柔道の祖・嘉納治五郎の  
縁者で、八歳から講道館に  
通い学習院時代には  
皇太子時代の大正天皇も  
彼の試合を見たという

故・田中市兵衛の  
娘と結婚し  
米国に渡っていた

南郷さんの  
武士道は  
アメリカでも  
通用するだろう

実はな  
まだ日本人が  
ほとんど  
手をつけていない  
地域がある……

アフリカと南米だ  
どう思う？

うむ  
ブラジルは  
地球の裏側だが  
君の言うように  
日本人もいる  
米国出張の際に  
安井豊太郎さんに  
視察を命じて  
きたよ

明治四一（一九〇八）年  
ブラジル日本人移民の  
第一船である笠戸丸が  
神戸港を出港していた

南米といえば  
ブラジル移民を  
思い出しますが  
……

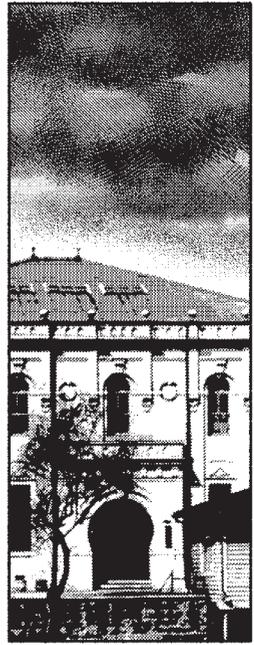
輸出では綿糸  
だけではなく  
綿布も取り扱い  
中国向けを  
拡大しよう

綿花の輸入は  
トップクラス  
であるが今後は  
製品の輸出で  
我々の存在感を  
示していく  
取り扱い品目も  
増やすぞ

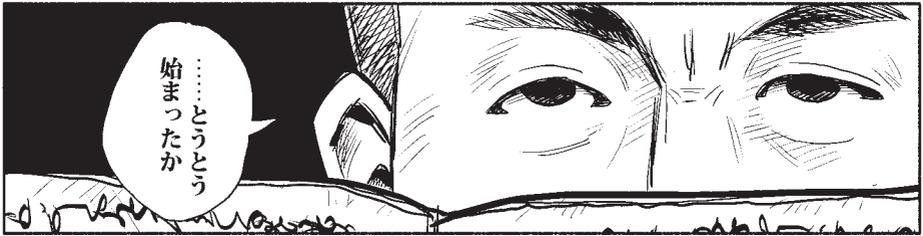
かしこまり  
ました！



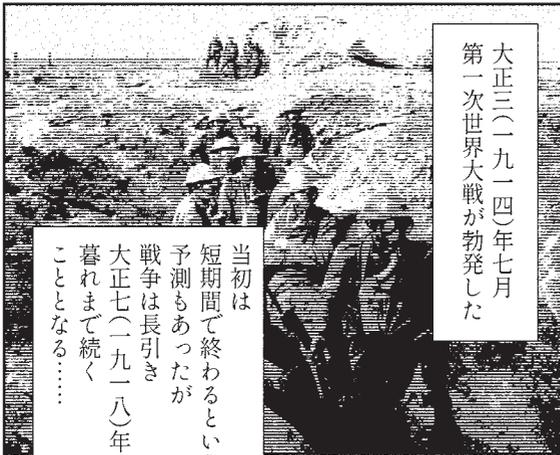
欧州でも感じたが  
どうも世界情勢が  
きな臭いな……



大変です  
欧州で戦争が  
はじまりました



……どうとう  
始まったか



大正三（一九一四）年七月  
第一次世界大戦が勃発した

当初は  
短期間で終わるとい  
予測もあったが  
戦争は長引き  
大正七（一九一八）年の  
暮れまで続く  
こととなる……



喜多さん  
どうすれば……

まずは落ち着け  
それから情報収集だ  
この戦争日本も  
無関係ではないぞ

ニューヨーク綿花  
取引所は暴落し  
閉鎖となりました

日本の三品取引所も  
立会が一時停止と  
大混乱です



慌てるな  
日本が戦場になった  
わけではない  
しっかり食べるんだ



しっかし  
船舶の不足  
航路の困難によって  
綿花の輸入も  
製品の輸出も  
悲観一色です  
市場も暴落しています  
紡績業界も一割の  
操業短縮ですよ



わかっているから  
それよりも  
ご飯を食べなさい

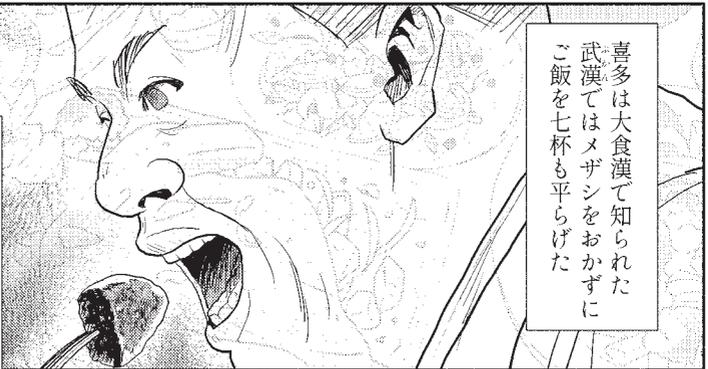
もぐっ  
もぐっ

君はしっかり  
食べているか？  
まずは落ち着いて  
ご飯を  
食べるんだ



は、はあ……

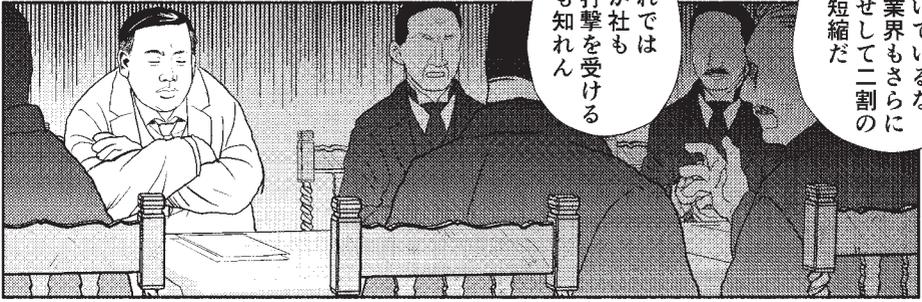
喜多は大食漢で知られた  
武漢ではメザシをおかず  
にご飯を七杯も平らげた



米国でも七面鳥の  
巨大なモモ肉を食べ  
さらにおかわりを所望し  
米国人コックを  
驚かせたという

欧州の戦争が  
長引いているなら  
紡績業界もさらに  
上乘せして二割の  
操業短縮だ

これでは  
我が社も  
大打撃を受ける  
かも知れん



好機  
到り!!!



世界の工場と  
呼ばれた英国は  
戦争で輸出  
どころではない  
海上封鎖で  
スエズ以東の  
航路は不安定化  
するだろう  
つまり  
欧州からの  
輸出は相当に  
細る……  
となると  
どこに注文が  
来る？

!?



カタ  
カタ

……  
なるほどな

志方社長  
増資の準備を  
お願いします  
この日本棉花  
……いや、  
日本は一気に  
飛躍しますよ

さすがだな  
世界一周は  
君を更に  
鍛えたようだ

……ワシら  
では到底  
かなわん  
見通しやな

鐘紡の  
武蔵山治さんや  
日清紡の  
宮島清次郎さん  
が絶賛する  
わけや……

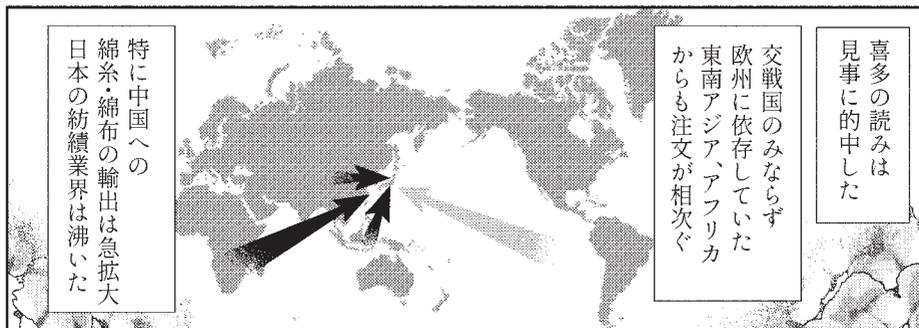




どんな大量の注文にも耐えるよう各地の駐在員に調達準備をしておくように指示しておいてくれ!

いまにどかんと注文がくるどんな要望にも応えられるように

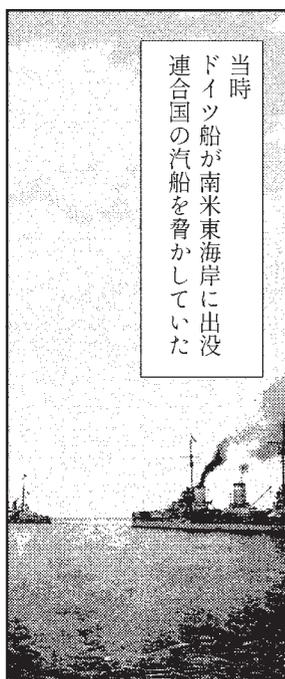
はい!



喜多の読みは見事に的中した

交戦国のみならず欧州に依存していた東南アジア、アフリカからも注文が相次ぐ

特に中国への綿糸・綿布の輸出は急拡大日本の紡績業界は沸いた



当時ドイツ船が南米東海岸に出没連合国の汽船を脅かしていた



ああ、聞いているそれでひとつ策を思いついた



大正五(一九一六)年喜多はある秘策を打つ

喜多さん戦争で英国植民地の豪州からの羊毛の輸入が禁止になって毛織物会社がつまづいているそうです

喜多の目は  
地球の裏側をも  
見ていた

大岡破挫魔<sup>おおかたけま</sup>くん  
に  
至急電報だ

大岡くんには  
アルゼンチンに  
行ってもらう

アルゼンチン!?  
なっ南米や  
ないですか!!



大岡破挫魔は  
漢口支店長を  
つとめた後  
ボンベイ支店長  
となった優秀な  
人材であった

ううむ  
また彼は海外駐在  
しかも南米……  
大丈夫ですかね

大岡君なら  
できるさ

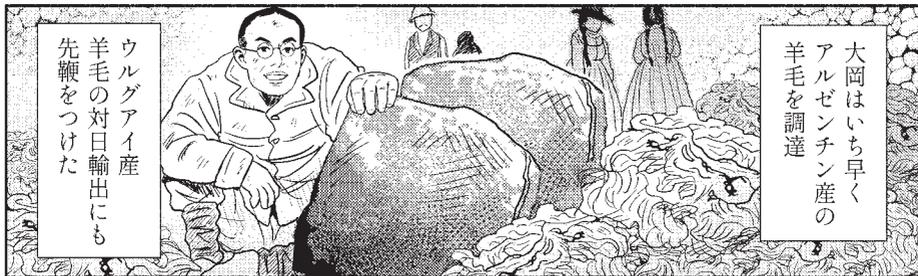


大岡は  
ニューヨークを経て  
パナマ運河を渡り

東海岸のドイツ軍を  
避けてチリから  
アンデス山脈を越え  
アルゼンチンに入った

ついに  
地球の裏側だ



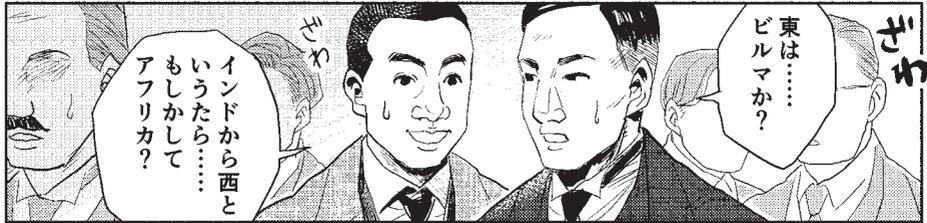


大岡の成功により  
日本綿花は大きな  
利益を得る

そして喜多は  
更に先を見ていた

諸君  
まだまだ日本が  
未開拓の地がある！  
商社として  
開拓精神を忘れず  
果敢に挑んで欲しい

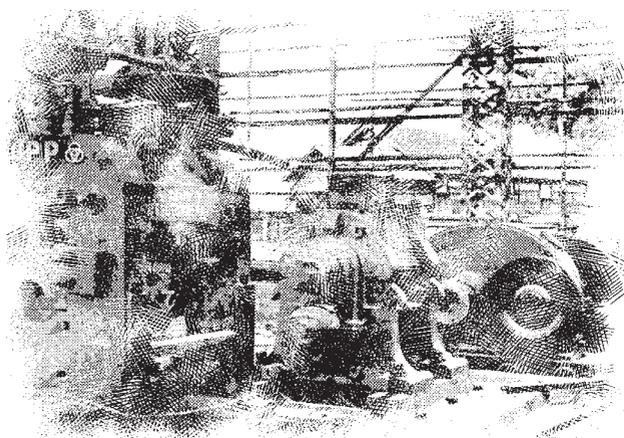
……そうだな  
インド駐在員には  
インドの奥地  
そして西と東を  
見ろと伝える



## 第2章

### 岩井商店

新たな単独セルロイド工場の設立と  
鉄板事業への挑戦



岩井商店でも  
大戦勃発をうけ  
新たな挑戦が  
はじまろうと  
していた



欧州で大戦か……  
これで欧州に依存  
していた物資の  
輸入は止まる

これを機に  
日本も自活を  
考えねばならぬ  
必要なものは  
自分たちで  
作らねば……



勝次郎社長  
日本セルロイド  
人造絹糸のことで  
ご報告です

生産は  
順調か？

はい  
生産自体は

ただ、三井の  
堺セルロイドも  
生産が順調で  
我々も含めると  
国内需要を上回って  
しまっています



採算面の問題が  
生じているわけだな  
だが  
セルロイド業界には  
大きな波が来るぞ

それがいいかは  
分からないがな  
……

……



岩井勝次郎は  
独自の経営哲学を持ち  
禅の思想にも共鳴する  
ところがあつた



特に座禅には  
真摯に取り組み  
一日三時間に及ぶ  
こともあつた

社長っ!!

お静かに  
岩井さんは  
座禅中です

しかしっ  
三時間も待てない  
ですよおん

……どうした  
そろそろ来たか?

!! は、はいっ  
ロシアの  
ゲルモニウス少佐が  
工場を視察に……

セルロイドは  
硝化綿  
(ニトロセルロース)  
と樟脳が原料だ  
つまり  
爆薬原料にもなる  
欧州のセルロイド  
メーカーもことごとく  
軍用に転換された

なるほど  
我々にも  
そういう  
需要が回って  
きたと……



こうして兵庫県網干にある  
日本セルロイド人造絹糸は  
一時的に爆薬工場に転換され  
軍から経営者を招き入れた



ロシアは  
連合国側で参戦している  
英国と異なり同盟は  
結んでいないが  
協力はしなければならぬ  
彼らと政府の要請に従え  
ただし……

はいっ  
そこは心得て  
おります



鈴木商店の  
金子さんは  
セルロイドより  
人造絹糸の研究に  
熱心だから何も  
言わんだろうな……



この頃  
欧州のセルロイド工場が  
のきなみ軍事転換され  
日本には民生用の  
セルロイド生地注文が  
大量に入ってきた

諸君！  
私の本音は別にある

セルロイド、  
プラスチックの  
重要性は変わらない

このたび私は  
日本セルロイド  
人造絹糸の取締役を  
辞任し……



おおーっ！



岩井単独で  
セルロイドを  
生産する

ついては  
あまがさき 尼崎の神崎に  
かんざき 広大な土地を  
購入した！



大正五(一九一六)年  
セルロイド生産を  
目的にした  
「大阪繊維工業」  
(現・ダイセル神崎工場)  
が誕生する



思い返せば  
大阪桜島の亜鉛鉄板の  
製造も当初は品質が  
向上せず苦しい  
経営だった

しかし  
鉄道沿線にある  
建物の屋根を  
不燃性にしよう  
屋上制限令が  
出たからは  
注文が増え今では  
工場も拡大した  
……



やはり事業には  
粘り強さが必要な



勝次郎社長  
大変です!



慌てるな  
需要はある

しかし  
輸入が滞れば  
需要に  
応えられない  
ではないですか

これは  
いい機会だ

ええ!?



大戦の影響で  
亜鉛鉄板の米英からの  
輸入が滞り始めました  
このままでは年間  
五万トンが消し飛びます!



岩井社長は  
本当に動じない  
お人だ……



海外依存という  
構造をひっくり返すんだ  
新工場を建設する  
人材を探すぞ



岩井勝次郎は  
米國留學を終えたばかりで  
大阪工高の教諭であった  
友田一太を岩井商店に  
招き入れた



ふむ  
この友田という  
人物がよいだろう



鉄板は重量貨物  
ですから港が重要です  
ここは地質・工業用水、  
労働力・港湾など  
すべて条件が整って  
います

そして  
工場建設候補地として  
山口県の徳山を視察した



さすがは金子さんや  
この徳山の地の利を  
よく理解されている



ん？  
あの煙突はなんだ

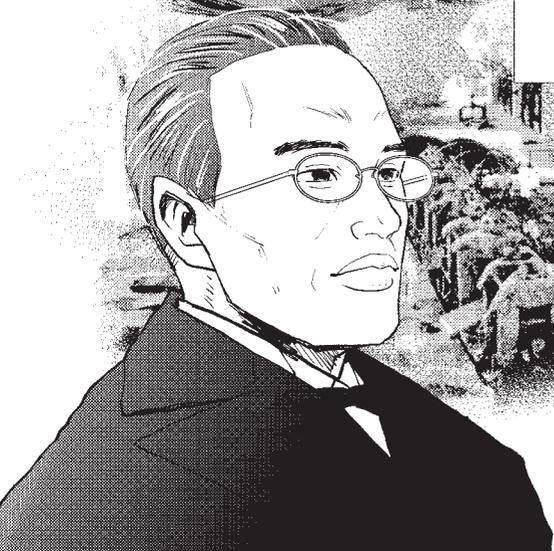
鈴木商店が何やら  
企んでいるらしいですぞ  
東洋最大の煙突を  
つくるらしいですわ



よし  
この徳山に  
工場を作ろう

大正五（一九一六）年  
薄鋼板圧延を製造するため  
亜鉛鍍株式会社  
徳山分工場の建設が決定  
（後の日新製鋼、現・日本製鉄）

翌年には  
大阪鉄板製造株式会社に  
商号を変更し  
取締役であった岩井勝次郎は  
社長に就任した





昭和三〇（一九五五）年に  
徳山工場に建立された  
頌徳碑には左のように  
刻まれている

勝次郎氏は大阪の貿易商人として  
常に独立独歩して権勢におもねらず、  
東都の政商と対抗して関西の純商人の面目を発揮し  
我国産業の発展に大きな足跡を残した偉人である。  
商人でありながら日本の黎明に早くも

将来の工業の出現を先見し、鉄鋼、化学、  
繊維等幾多の工業会社を創設した。

遠く明治四三年、当時は専ら輸入に仰いでいた  
亜鉛鉄板の製造を始めるために

大阪鉄板製造株式会社を興し、

大正七年にはその原料たる薄鉄板の製造を企てて  
分工場を此の地に選んで建設した。

この薄鉄板は当時としては僅かに官営八幡製鉄所に  
於いて試験的に製作されていたのみであり、

全く前人未到の大事業であった。

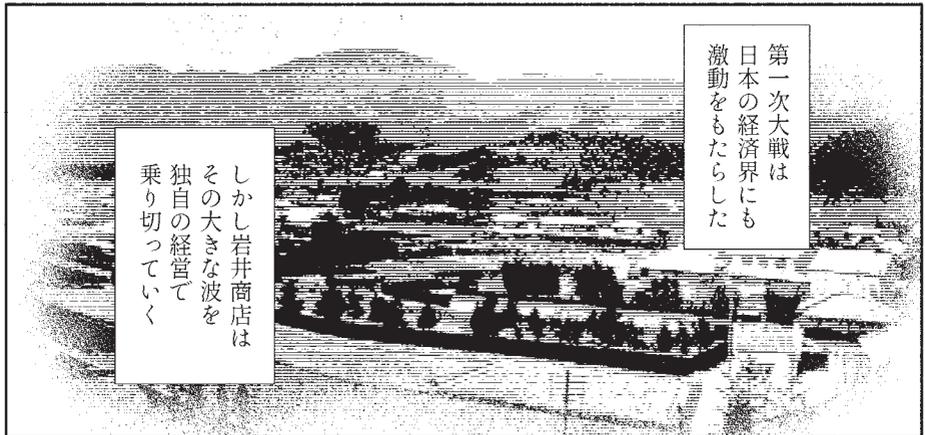
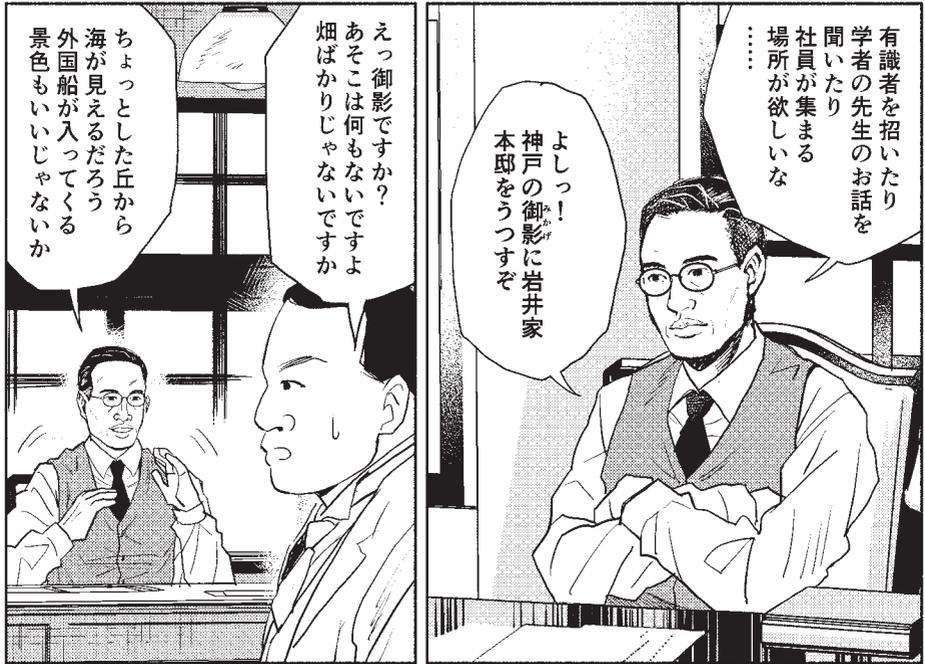
実に今日日本の盛大な薄鉄板製造事業の歴史は  
この地に肇まったと称しても過言ではない

岩井勝次郎は  
有識者・学者に敬意を払い  
また社員の絆も重視  
していた

そういえば最近  
勝次郎社長は  
東京帝国大学の田中助教と  
会ってるらしいんですわ

彼はなんと  
わずか三〇歳なんですわ  
大丈夫なんでしょうか？

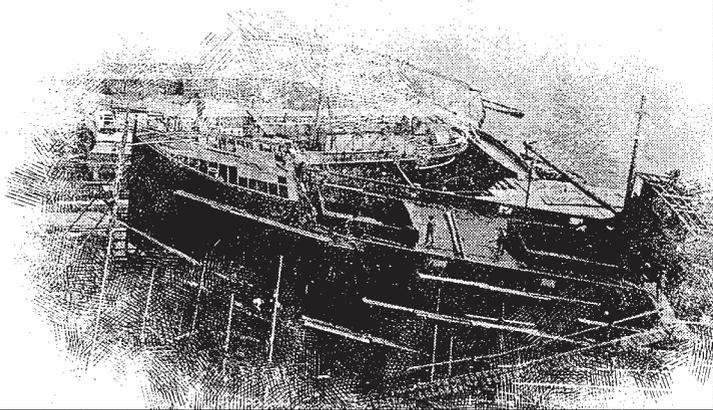
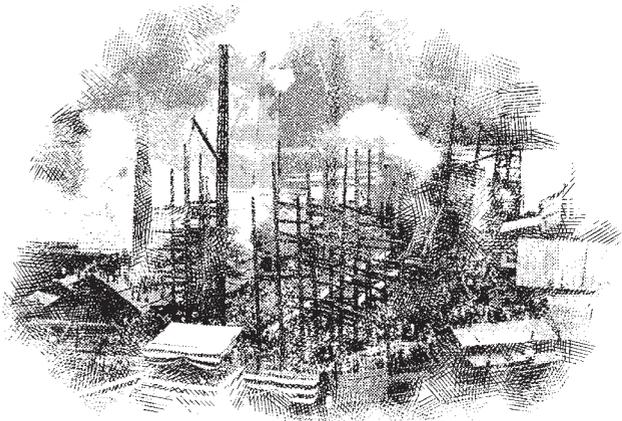
なんとも  
勝次郎さんらしいな  
あの人は謙虚だから  
日本の製造業に  
必要な技術がなにか  
欧米の最新技術を熱心に  
学んでいるんだ



第3章

鈴木商店

金子直吉の  
大号令と造船業への進出



鈴木商店にも  
大戦の情報は  
いち早くもたらされた

金子さん  
大変です！  
ついに欧州で  
戦争勃発です！

鈴木商店は  
世界中に若手社員を派遣  
独自の通信網を構築し  
毎日世界中から電報が  
届けられた



よーっし  
まずはロンドンの  
高畑に電報を打て！  
この戦争は長引くぞ

「BUY ANY STEEL,  
ANY QUANTITY, AT ANY PRICE」  
(鉄と名のつくものは  
何でも金にとめをつけず  
いくらでも買いまくれ)や！

そして付け加えろ  
高畑に一切の裁量を  
任せると



会計主任の  
日野誠義くんは  
いるか？

はいっ  
ここに！

今日以後  
鈴木店の信用と財産とを  
十分に利用してできるだけ  
金をこしらえ極度の融通を  
図ってもらいたい

いかに行き詰まるとも  
自分の戦鬪力を鈍らせる  
ようなことは言ってくれるな  
盲滅法でまっしぐらに  
前進じゃ！  
いよいよ立ち行かぬ時には  
俺だけにそつと言え



鈴木が大をなすのは  
この一挙にある！



しかしこの戦争は  
すぐ終わるとの  
見方がありますが  
……

世界各地から  
送られてくる  
鈴木若者たちの  
情報を信じる  
そのために  
神戸高商  
(現・神戸大学)卒の  
精鋭を入社  
させとるんじや

日本の財閥でも  
短期終結の見方は  
根強くあつた

鈴木は買って  
いるらしいぞ  
あれはアホだな

所詮個人商店の  
成り上がりもんじや

わしは撞取引で  
空売りに失敗して  
痛い目にあつた  
あれ以来単純な投機は  
やらんと決めて  
いいか 鈴木商店の情報は  
どこよりも早い  
そして実需に基づいて  
おる

ロンドンの高畑が  
調達した鉄で三菱造船所に  
一万トンの船を三隻発注じや  
他の造船所にも発注するぞ  
鈴木船で世界中に必要な  
物資を届ける

そして……  
鈴木でも船を作るぞ!

おおっ……

正確な情報に基づいた  
金子直吉の策は当たり前  
短期終戦を見込んでいた  
財閥も考えを改めざる  
をえなかつた

ばかもん!  
鈴木の情報  
恐ろしく正確で  
我々よりも  
早いじゃないか  
動きをして  
損をするとは  
何事だつ!!

申し訳  
ありません

ぬぬぬ……金子直吉  
あの渋沢さんが  
一目置いただけの  
ことはある

宣言した通り  
金子直吉は造船のため  
準備を進めていた



金子さん  
ロンドンの高畑から  
貨物船の設計図と  
材料表が  
届きました！

おお!!



よししきつそく  
松方幸次郎さんの  
ところに行くぞ！

……そりやな  
辻湊を連れていこう  
やつは鈴木が誇る  
機械のプロや  
台湾の鈴木製糖事業  
でもようがんばって  
くれた



松方さーん



松方幸次郎は  
首相もつとめた  
松方正義の三男で

金子直吉の  
無学歴とは異なり  
エール大学を卒業した  
エリートであった



これは金子さん  
お待ちしておりますよ

のう松方さん  
神戸で  
ガントリークレーンを見ているとどうしても  
船を作りたくなつて  
しまうんじや



ありがたいっ！  
では御礼に  
わしから  
提案があります

提案……？

注文が来てそれから  
造っていいは  
商売の進みが遅い  
そこで同じ型の船  
(ストックポート)を  
先に大量に建造して  
神戸港に並べて  
おいて欲しいんです  
必要な鉄は  
もう鈴木が確保  
しております



そして松方さんには  
是非ロンドンに  
旅立っていただきたい  
鈴木商店の一室を  
お貸ししますので

そこでロンドン  
支店長の高畑と共に  
大英帝国相手に  
売りまくって  
いただきたい！



それはまた斬新な発想だ  
是非ともやりましょう

ロンドンでは鈴木商店の  
世話になりますよ！



こうして  
鈴木商店は本格的に  
造船業に乗り出した

辻っ！  
松方さんの  
お墨付きももらった  
思いつきりやるぞ

はいっ  
まずはドックの  
拡張からですね

そうじゃ  
しかしもっと先も  
見通すんじや





技術者に至っては  
二、三名という  
ありさまであった

当時の相生は  
町政が施行された  
ばかり  
造船所の工員は  
二〇〇名程度



播磨造船所を核として  
相生自体を大きくする  
そういう発想を  
持ちなさい

うはいっ  
しかし……



ドックを拡張して  
工員が増えたら  
その家族の分も  
人口が増える  
必要な物資の量も  
施設の種類も増えて  
でっかい街ができる

鈴木の若手社員の  
北村徳太郎を  
うまく使ってくれ  
全国から  
必要な人材を  
確保するんじゃ!

わかりました!



おお  
頼もしい援軍が来た

北村徳太郎  
(のち、運輸大臣、大蔵大臣)



続々と優秀な人材が集い  
造船所を核にして  
相生の町は発展していく

この  
大本百松の名に  
かけて拡張工事を  
しっかりとやらせて  
いただきます!

オー

大本祖創業者  
大本百松



しかし  
あちこちから  
聞きなれん言葉が  
聞こえますなあ

ははは  
全国から人材が  
集まっていますからね  
この町は一気に  
一万人の町になる  
住宅を増やして  
病院、そして幼稚園も  
つくりますよ

実際にこのとき  
多くの人々が  
遠くから相生に  
やってきた

のちの通商産業大臣で  
優秀な技術者である  
横尾龍も長崎から  
大勢の人材と共に  
事業に参加していた

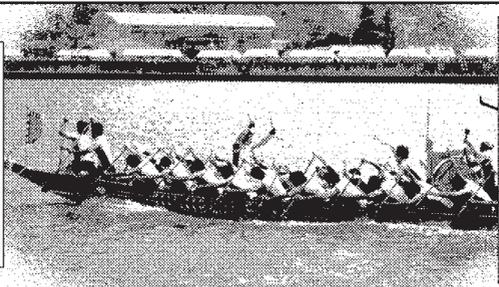


おお、横尾さん  
あなたと一緒に  
長崎から来た連中が  
「ペーロン」を  
やりたいと言うとる  
のを聞いたんだが  
一体なんじゃ？

ああ  
長崎の祭りですよ  
ここも港町ですから  
できるといいですね



やあ  
大本さんどうも  
どんどん賑やかに  
なりますね



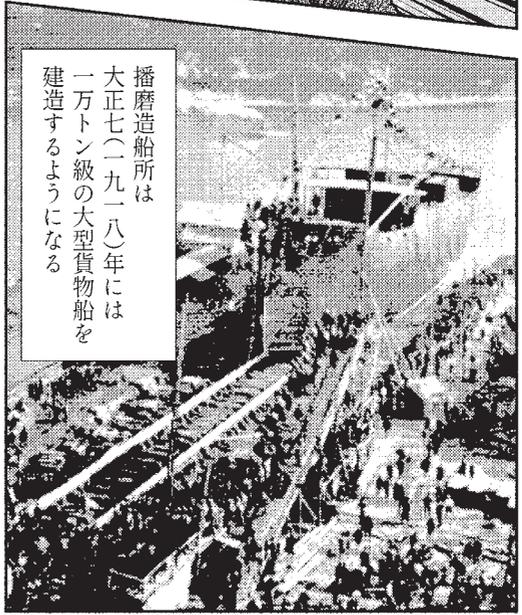
大正一（一九二二）年  
播磨造船所の  
長崎出身者が集まり  
ペーロン祭が初開催  
される

現在も続く  
相生ペーロン祭  
の起源である

さあ  
今日は  
進水式や



播磨造船所は  
大正七(一九一八)年には  
一万トン級の大型貨物船を  
建造するようになる



ようやく  
大型船を作れるように  
なりましたね

もっとやるぞ



播磨造船所は  
一万トン型一五隻、  
五千トン型六隻、  
二千から三千トン型  
一〇隻、

合計三一隻  
二〇万重量トンの  
大型鋼船を建造  
する!!

おおお



播磨造船所が  
奮闘するなか  
新たな買収話が  
もたらがる

今度は  
三重県の  
鳥羽造船所  
じゃって?

ええ、  
御木本さんが  
お越しです



鳥羽造船所は  
旧鳥羽藩士が設立したが  
廃業寸前に追い込まれ  
地元財界が奔走していた  
そして……

真珠王として知られ  
地元産業の衰退を憂いた  
御木本幸吉が  
地元財界を代表し  
金子直吉に請願する  
こととなった

金子直吉さん  
この鳥羽造船所の  
立て直しをお願い  
できませんでしょうか？

御木本さんが  
頭を下げられた！

天皇陛下にも  
頭を下げないと  
言われたお人が……

頭を下げる  
必要はありません  
日本のためや  
喜んで引き受け  
させてもらいます

金子さん……  
噂以上の大人物や  
ありがとうございます  
ありがとうございます……

こうして鈴木商店は  
鳥羽造船所を買収する

辻、播磨造船所が  
軌道に乗ってきた  
ところ悪いが  
次は鳥羽造船所の  
経営を任せたい

……………  
条件があります

鈴木は造船に  
進出しましたが  
エンジンや発電機などの  
船舶用の電気機器はまだ  
自前ではありません  
これらも国内で自給  
すべきと自分は  
考えます

それを  
鳥羽でやるのが  
条件か……………?

さっすが  
辻湊じゃ！  
素晴らしい発想  
どんどん  
やったらええ  
日本は今後  
電気機械に強く  
ならねばならん  
さっさと鈴木を救う  
事業になる！

これが後の神鋼電機  
(現・シンフォニア  
テクノロジ)の  
出発点となった

よしっ  
鳥羽では常に  
新しい挑戦を  
続けていくぞ！

……………うん？  
君は何を  
書いているんだ？

この風景が  
好きなんですよ  
うまく文章で表現  
したくて……



あっ  
これは辻工場主！  
すみません  
これは社内報に  
載せる文章  
でして……



いや  
謝るのはこちらだ  
邪魔をしてすまない  
それも仕事だ  
続けなさい

はい  
ありがとうございます！



いろんな社員が  
いるものだ……  
それも  
鈴木**の**強みか

鳥羽造船所の  
社内報「日和」を担当  
していたこの社員  
名を平井太郎という



のちに  
日本を代表する  
推理作家となる  
江戸川乱歩の  
若き日の  
姿であった



鈴木商店はその後も  
大阪の檜丸造船所  
浪華造船所を  
次々と買収する

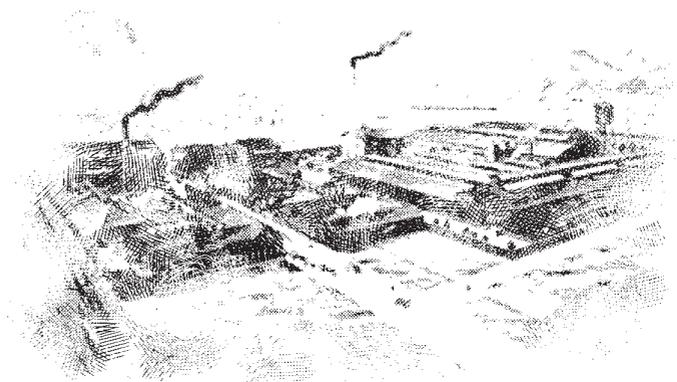
そして建造した船舶は  
鈴木傘下の帝国汽船の  
船団に組み入れられ  
世界中を駆け巡る  
ことになる



## 第4章

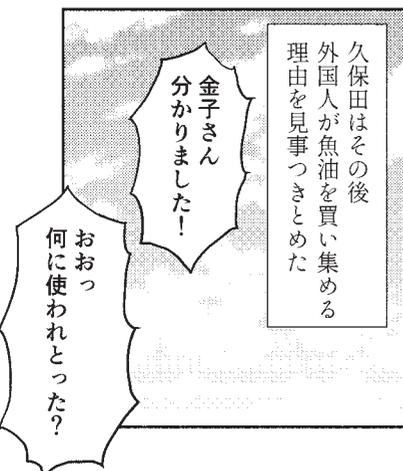
### 鈴木商店

#### 日本初の硬化油工業、冒険野郎とゴム事業



時は少し遡る  
金子直吉は外国人居留地で  
ある疑問を抱いていた





西洋では  
イワシやニシンの油に  
水素を添加して  
蠟燭や石鹼にしたり  
副産物としてグリセリン、  
オレイン酸など製造して  
大儲けをしている  
らしいです

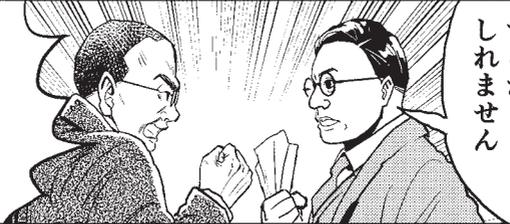


何っ!?  
あいつら……  
そんなことも  
知らんでわしらは  
外国人を儲け  
させるために  
くっさい魚油を  
輸出してたんか  
……



ううう……  
悔しいのう

金子さん  
この分野は  
硬化油工業  
という新たな  
産業に成長  
するかも  
しれません



よしっ  
おまえとわし  
そして  
鈴木 靱智で  
産業を興すぞ!

大正元(一九一二年)  
久保田は刈藻島の  
小さな実験室で  
研究に取りかかった



やっぱり  
臭いのう……

そして一年後  
久保田は蠟の生成に  
成功する

金子さん  
ようやく蠟が  
できました!

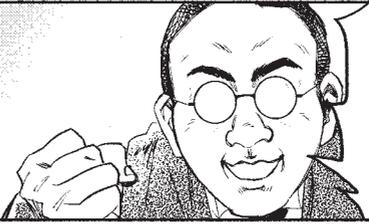
ようやくった!  
次は水素をどう  
するかだな……  
よし

神戸製鋼所の  
中央研究所の中に  
水素プラントを  
つくるんや



しかし自分は  
そちらの  
方面は……

心配せんでいい  
有能な技術者を  
後藤新平さんに  
手配して  
もらっとる!



こうして  
村橋素吉や  
磯部房信が  
加わる  
こととなる



しかし試験生産は  
順調には進まなかった



すみません  
また電解装置を爆発  
させてしまい  
ました……

謝らんでええ  
それよりも諦めるな  
まだ日本では誰も  
量産に成功しておらん



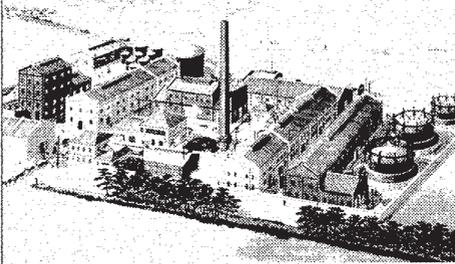
いいか  
ここでやらねばずっと  
外国人にいいようにされるぞ  
自分たちで蠟燭、石鹼、そして  
爆薬にもなるグリセリンを  
日本でもつくるんじや

そのための金なら  
いくらでも使つていい

は はいっ！  
ありがとうございます！



ようやく量産の目処がつき  
荊藻島の対岸に村橋の指導の  
もとで鈴木商店製油所  
兵庫工場の建設がはじまるのは  
大正四(一九一五)年の  
ことであった



鈴木商店は硬化油の研究に  
着手してから量産までに  
大里製糖所の売却益に匹敵  
する規模の資金を投入した  
これが現在の日油の  
出発点である

この頃  
金子直吉のもとに奇人が  
多く集まりそこから  
事業が生まれる

金子さん  
今日は私の兄者を  
紹介させていただきます

省三と  
申します

ほう、口説きの  
依岡省輔の兄か  
こりやまた一癖  
ありそうじゃ



私は榎本武揚大臣の  
命を受けて小笠原諸島を  
探査しました  
そしてこの国にも  
属していない硫黄島を  
日本領土に編入するよう  
献策しております

ミッドウエー島も探査し  
南大東島では製糖事業を  
手がけております

実は  
サラワク(現・マレーシア)を  
冒険しようと思ひまして……  
ゴムの栽培を考えています

なぬっ! ゴムか  
おもしろいっ!!

危険を顧みない  
冒険野郎じゃな  
一緒にやろう  
ではないか!!



久村が大阪・鞆島の  
東レザードで人工皮革  
(下駄の緒、  
靴のゴム・合羽)を  
製造してるだろう  
皮革とゴムとは  
相性がよいからな  
この分野広げるぞ!

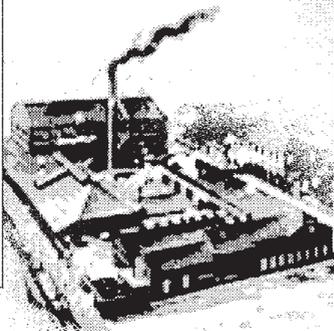
はいっ!!



そして鈴木商店は  
ゴム事業を発展させる

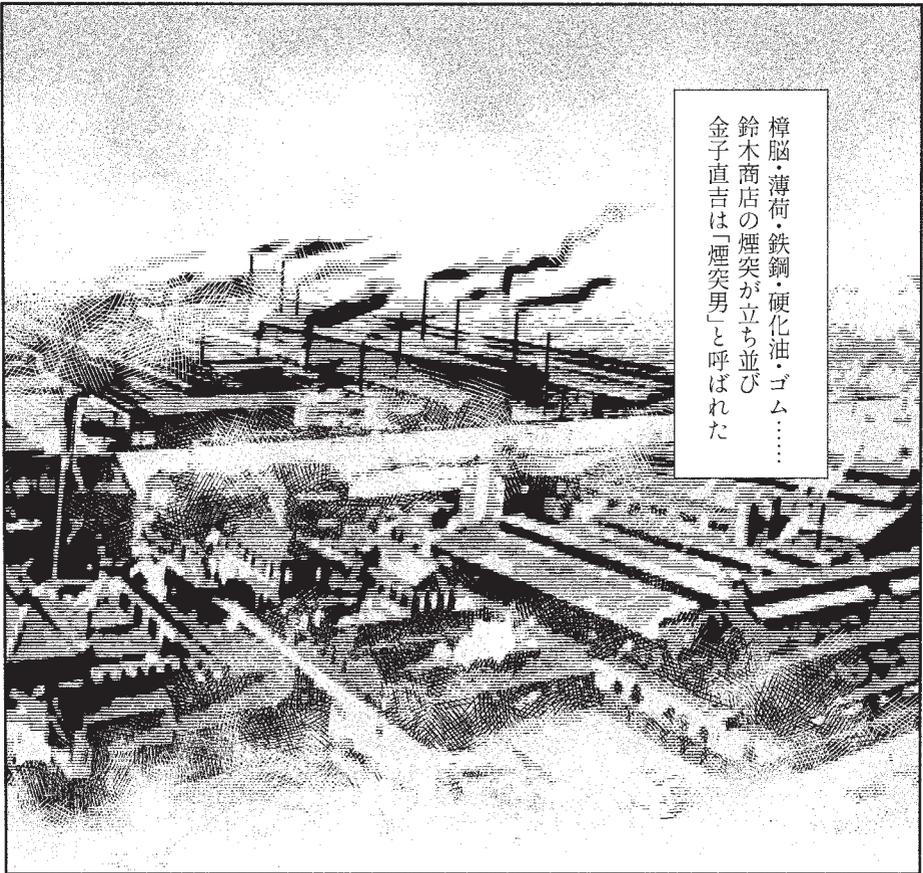
大正三二(一九一四)年  
神戸・敏馬にゴムの製造工場  
(日本輪業、現・ニチリン)を設立

「さくら・タイヤ」「アズマタイヤ」  
「ニチリンタイヤ」などのマークで  
自転車タイヤ・チューブを製造



さらに新たにファイバー  
(硬質繊維板)の製造を開始  
日沙商会から東洋ファイバー  
(現・北越東洋ファイバー)  
が発足する

樟脳・薄荷・鉄鋼・硬化油・ゴム……  
鈴木商店の煙突が立ち並び  
金子直吉は「煙突男」と呼ばれた



金子直吉がこたわった  
人絹研究は困難を極め  
つつ徐々に進んでいた

どうじゃ？  
研究は



ええと金子さんと  
一緒に来られた  
秘書の小野さんが  
二硫化ガス中毒で  
倒れましてですね……

いや……はい  
まだ歩留まりが悪く  
……申し訳ありません



なんの！  
いまの歩留まりは  
60%でコスト四円  
技術と機械と職工の三つが  
揃って働くようになれば  
歩留まりは90%にもなり  
コストは八〇銭  
ぐらいになる

そうなれば  
大儲けじゃ!!



この頃には神戸の鈴木商店  
そして金子直吉の名は  
日本中に知れ渡っていた

金子直吉の米沢来訪を  
知った地元財界人たちは  
招遷閣に招き  
事業化を懇請した

是非  
士族が始めた  
旧製糸場を使って  
人絹の製造を事業化  
してください工場は  
無償でお譲りします

ただより高いものはない  
買わせていただく  
鈴木の名を汚すわけにはいかず  
まずは久村の東工業の子会社  
というところで出発しよう



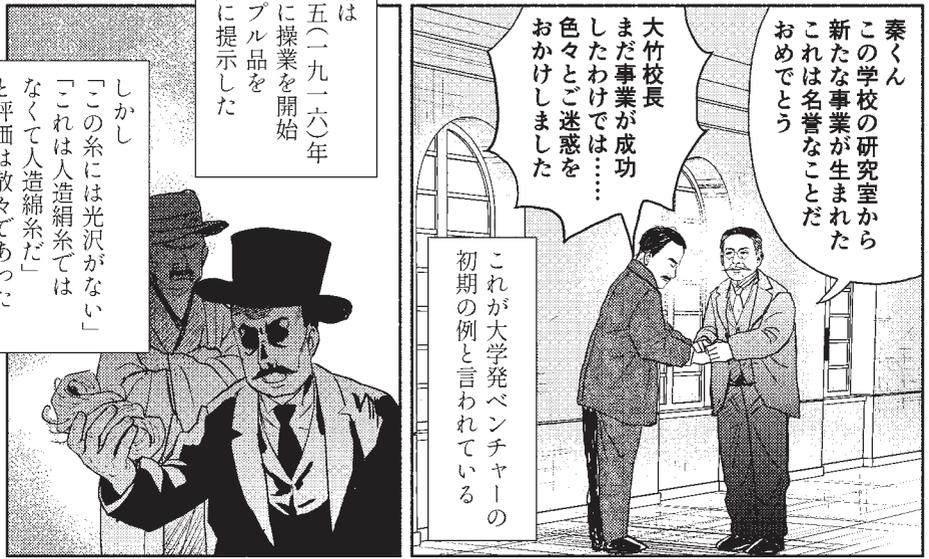
秦くん  
この学校の研究室から  
新たな事業が生まれた  
これは名譽なことだ  
おめでとう

大竹校長  
まだ事業が成功  
したわけでは……  
色々ご迷惑を  
おかけしました

これが大学発ベンチャーの  
初期の例と言われている

工場は  
大正五(一九一六)年  
五月に操業を開始  
サンプル品を  
客先に提示した

しかし  
「この糸には光沢がない」  
「これは人造絹糸では  
なくて人造絹糸だ」  
と評価は散々であった



久村も米沢入りをし  
人絹の製造を支援する

この事業は  
成功させなくては  
ならない……!

久村さん  
痛み入ります

光沢光沢……  
ナメクジの這ったあととの  
光沢を研究したら  
どうだ?



ナメクジ  
ですか?

いいからナメクジを  
ヴィスコースに  
入れるんじゃ!

金子直吉は素人ながら  
二人と悩みを共にし  
次々と途方もない  
アドバイスをした



しかし  
なかなか研究は  
進まなかった

うぬぬ……  
わかった

秦、ロンドンの高畑の  
ところに行け何も収穫が  
なくてもいいとにかく  
行くんだ!

はいっ

こうして秦は  
ロンドンに旅立つ  
ことになる  
日本の人絹の  
未来を背負って



第一次世界大戦を  
契機とした産業構造の変化は  
三社の発想と創造に大きな  
影響を与えていくのである

## サラワク王国と日沙商会～ゴムの栽培から製造まで一貫体制を構築

神戸製鋼所の専務であった依岡省輔(1873～1937)の兄・依岡省三(1865～1911)は、冒険家として知られる。当時、どの国にも属していなかった硫黄島を日本領土に編入するように日本政府に提言。また、金子直吉と初めて面会した際には、ボルネオ島北部のサラワク王国(現在のマレーシア・サラワク州とブルネイの一部)に、ゴム園の経営を提言。金子直吉は危険を顧みない省三とすぐに意気投合した。



依岡省三



日沙商会

当時、サラワク国王は外国人には土地を貸さないといわれていたが、見事に口説き落とし、農園の租借権を得て、日沙商会を設立。同社は、鈴木商店系の東工業のゴム事業(現・ニチリン)も継承して、ゴムの栽培から製造まで一貫体制を構築した。しかし、省三は一時帰国中にマラリアによって急死。弟の省輔が意思を引き継ぎ、日沙商会の社長を兼務することとなり、日本とサラワク王国との貿易そして友好に尽力する。昭和4(1929)年、日沙商会の企画・立案でサラワク国王夫妻の来日が実現。これをきっかけに沖縄からの米作移民が入植し、日本とサラワクの友好関係はさらに深まったといわれている。



依岡省輔



昭和4(1929)年、サラワク国王夫妻の来日が実現。ラジャ・ヴァイナー・ブルック国王一行と日沙商会幹部(後列左から2人目が依岡省輔)

## 日本綿花本店ビルは、戦後、日銀大阪支店分館に



明治42(1909)年に竣工した日本綿花本社ビル(右)。  
左は昭和28(1953)年に完成した新社屋

明治42(1909)年に中之島2丁目に建てられた日本綿花本社ビルは、石造2階建ての洋式建築で、当時大阪では代表的な名建築として知られ、各地から見物に来たという話が伝わっている。昭和28(1953)年に、その西隣に新社屋が完成するまで44年間、本社事務所として使用され、その後、日本銀行大阪支店分館として長らく使用されていた。

## 岩井勝次郎と座禅

勝次郎の生活には仕事と禅以外に何物もなく、1日少なくとも3時間は座禅をしていた。毎朝暗いうちから下男と一緒に竹箒を持って自宅の前を掃除し、雨の日も風の日もこれを怠ることなく、健康維持の方法として独特の強固な意志をもってこれを続けた。

別子銅山の大紛争を解決した住友の伊庭貞剛から座禅を紹介されたことがきっかけで、短気な性格を矯正したいという思いもあった。



勝次郎が晩年に設立した長岡禅塾



岩井勝次郎の趣味は禅

双日は現在、全世界に400以上のグループ会社を有し、自動車・航空産業・交通プロジェクト、インフラ・ヘルスケア、金属・資源・リサイクル、化学、生活産業・アグリビジネス、リテール・コンシューマーサービスの7本部体制で、広範・多岐にわたる製品の製造・販売や輸出入、サービスの提供、各種事業投資などをグローバルに展開しています。



## **Hassojitz**

総合商社 双日 未来を創造した先駆者たち  
～第3巻 躍動～

2023年1月 第1刷発行

発行 双日株式会社

〒100-8691

東京都千代田区内幸町2-1-1

画 すずきんかりお

関連サイト [https://www.sojitz.com/special\\_site/pioneer/](https://www.sojitz.com/special_site/pioneer/)

-----  
無断複写・複製・転載を禁じます  
-----

本マンガ制作にあたっては、本巻に登場する多くの取引先企業、鈴木商店記念館、大阪企業家ミュージアムの皆様にご協力いただきました。

厚くお礼申し上げます。



*New way, New value*

WEBサイトで  
公開中



本マンガは、双日のWebサイトに第1巻より順次掲載  
[https://www.sojitz.com/special\\_site/pioneer/](https://www.sojitz.com/special_site/pioneer/)